

連載第17回

京大植物園観察会

第51回 京大植物園観察会レポート
2007年6月7日(木)12:05～12:55 晴れ
テーマ『ナミテントウの観察』

ガイド

大澤 直哉 (京都大学農学研究科)

■ 第54回観察会のお知らせ

日時:9月27日(木)12:05～12:55

場所:京都大学理学部附属植物園

『京大植物園花の地図を作ろう Part II』

植物園前に集合してください。

今回は京都大学農学研究科の大澤直哉さんに、「ナミテントウ」についてガイドしていただきました。私たちになじみ深いナミテントウの意外な生態を知ることができました。参加者の感想です。

● 普段よく見るナミテントウの生態のお話は興味深く、実際に観察出来てよかった。京都市外の方

● アブラ虫もテントウ虫も幼虫や卵のことに感心がありませんでしたがよくわかりました。草花の葉を食べる虫との区別がわからずにいましたが、少しわかりました。無記入の方

● 今日はとりわけ興味があるテーマだったので大変面白かったです。資料も詳しくて良かったです。京大農学研究科 院生 女性

● ただてんとう虫の仲間と言うだけで見過していた。また「てんとう虫だまし！」と片付けていたのを今日を限りに「ナミテントウ」と“虫権”を尊重することにします。参加～5回 京都市内 男性

● お友達に連れて来ていただいて、楽しくおもしろく先生にてんとう虫について聞きました。ありがとう御座いました。無記入の方

● 家の庭でよく見かけるテントウ虫で今まで見付け次第つぶしていました。葉も食べる虫と思っていたからです。今回の見学会で肉食昆虫と知り、しかもアブラムシを食べてくれることを知り、今後は少し大事にしてやらなければと認識しました。ありがとう御座いました。初めての参加、京都市外 男性



▲ナミテントウ



● ナミテントウの生態を知る事ができたので感謝しています。生きることの切なさを感じます。初めての参加 京都市内の方

● 資料の準備、説明、観察指導いずれも行き届いており、非常に分かり易い観察会でした。ナミテントウの種

の存続のための手段として卵のレベルでの共食いが行われていることに驚きました。生きもののチエとして素晴らしいと思いました。初めての参加 京都市外 男性

●共食いをする性質が興味深いと思った。さなぎと幼虫の区別がわかりにくかった。海外に天敵として導入されている点は生態系のバランスの観点から、あまり好ましくない面もあると思いました。初めての参加、京都市外の方

●ナナホシと害虫の数の多いテントウムシしか知りませんでした。生態も少し理解出来たかも…。京都市内の方

●ナミテントウムシという一点から世界の農業政策まで、話を展開してもらって、非常に興味をそそられた。無記入の方

●ていねいな説明でよくわかりました。引き続き回を重ねてください。参加～5回の方

●本日は点トウムシの事が大変くわしくわかりました。ありがとうございました。またこのような植物だけでなく虫の事もお願いします。参加～5回、京都市内 男性

●小さなナミテントウの生態、交尾、卵、幼虫、成虫となるまでの生存競争に共食いがあるとはおどろきました。初めての参加、京都市外 男性

●ナナホシテントウムシの生態はじめて聞きました。共食いで種のを調整している事聞き、又目のあたりに見てびっくりしています。初めての参加、京都市外 男性

●とても勉強になりました。ありがとうございました。参加10回以上、京大近辺 女性

●種を残して行くのはきびしいと思った。初めての参加、京都市外 女性

●なみてんとうについて変異体も多く理解できていなかったが、4分類(基本型)でありその特質もよく判り大変参考になった。初めての参加、京都市外 男性

●身近なテントウムシについて、多くの知らなかった事項を学べて有意義であった。参加～5回、京都市内の方

●ナミテントウの事はよくわかりこれからの観察に大変やくにたちました。ありがとうございました。初めての参加、京都市外 女性

京大植物園を考える会 <http://members.at.infoseek.co.jp/bgarden/>

| ひとつまえにもどる |

Copyright (C) SCOOP. NET Kyoto-Univ CO-OP. All Rights Reserved..